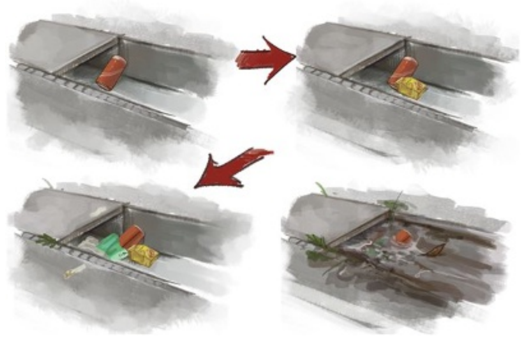
～たったひとつのゴミから～



最初はたったひとつのゴミでしたが、
そのゴミにひっかかり、また次のゴミがたまっていきます。

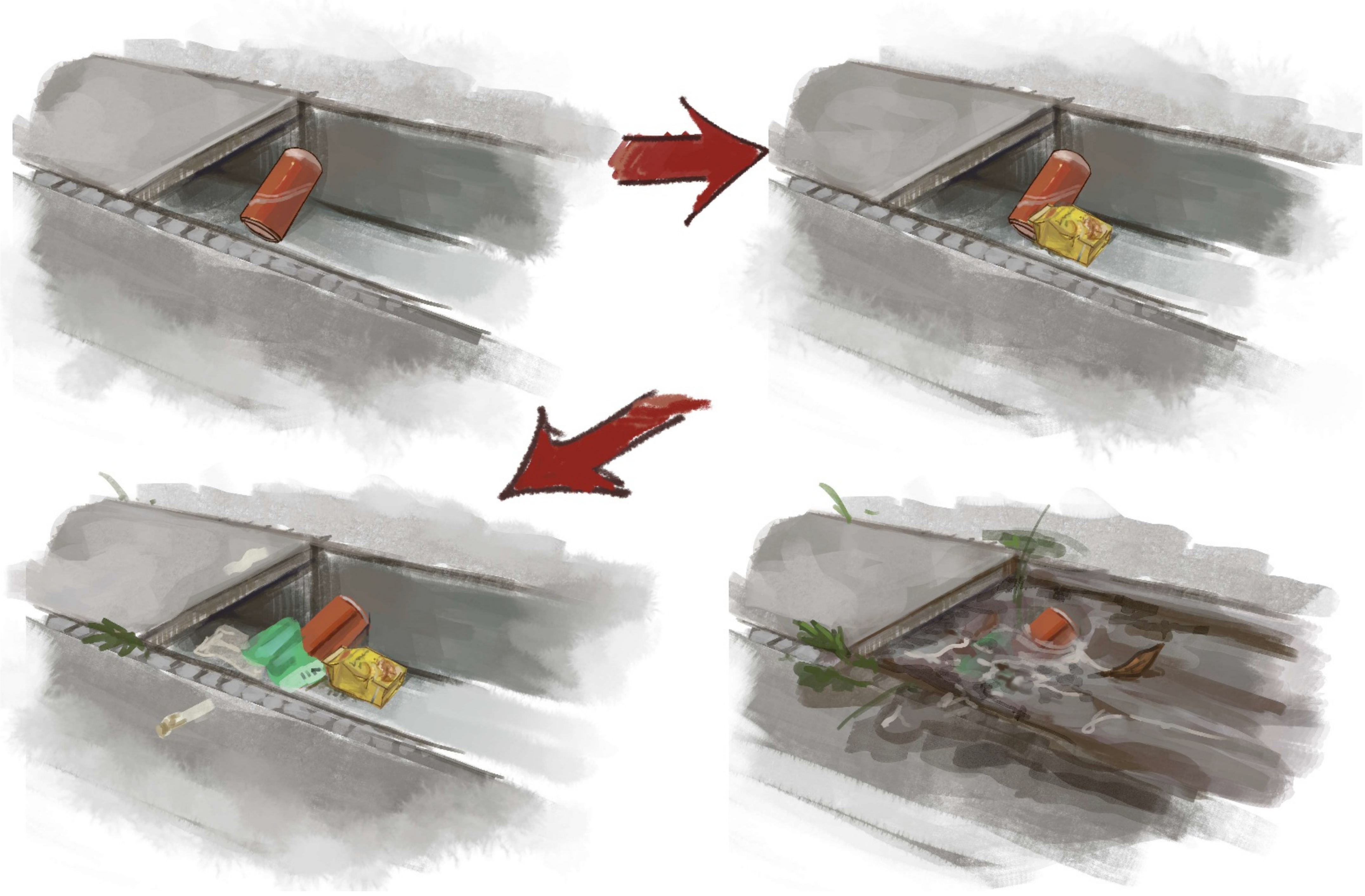
しだいに、側溝の流れも悪くなり、土がたまり、草がはえ、
またゴミがひっかかり・・・

側溝は詰まってしまいました。

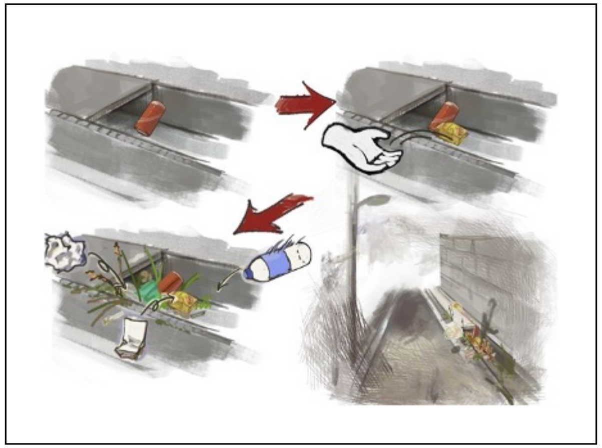
ある日、大雨が降りました。
側溝の水は流れが悪く、あふれてしまいました。
これにより、周辺が水びたしになりました。

最初は、たったひとつのゴミから始まりましたが
しだいに大きくなって、災害を引き起こしてしまいました。

作成：認定NPO法人好きっちゃ北九州
一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団
2023年度「住まいとコミュニティづくり活動助成」
絵：山本 凛香



～たったひとつのゴミから～



たったひとつのゴミから始まる、もうひとつのストーリーです。

ゴミが捨てられているところに。

「おっ、ここに、ゴミが捨てられてる。

　これも、ここに捨てても良いだろう」

ゴミがある場所には、また次のゴミが捨てられやすくなります。

次々とゴミが捨てられ、何だか気持ちの悪い場所になっていきました。

いつも散らかっているし、この道を通る人は少なくなっていきました。

草も延び放題。

街灯が切れていても誰も修理しません。

こうした人が通らない場所は、

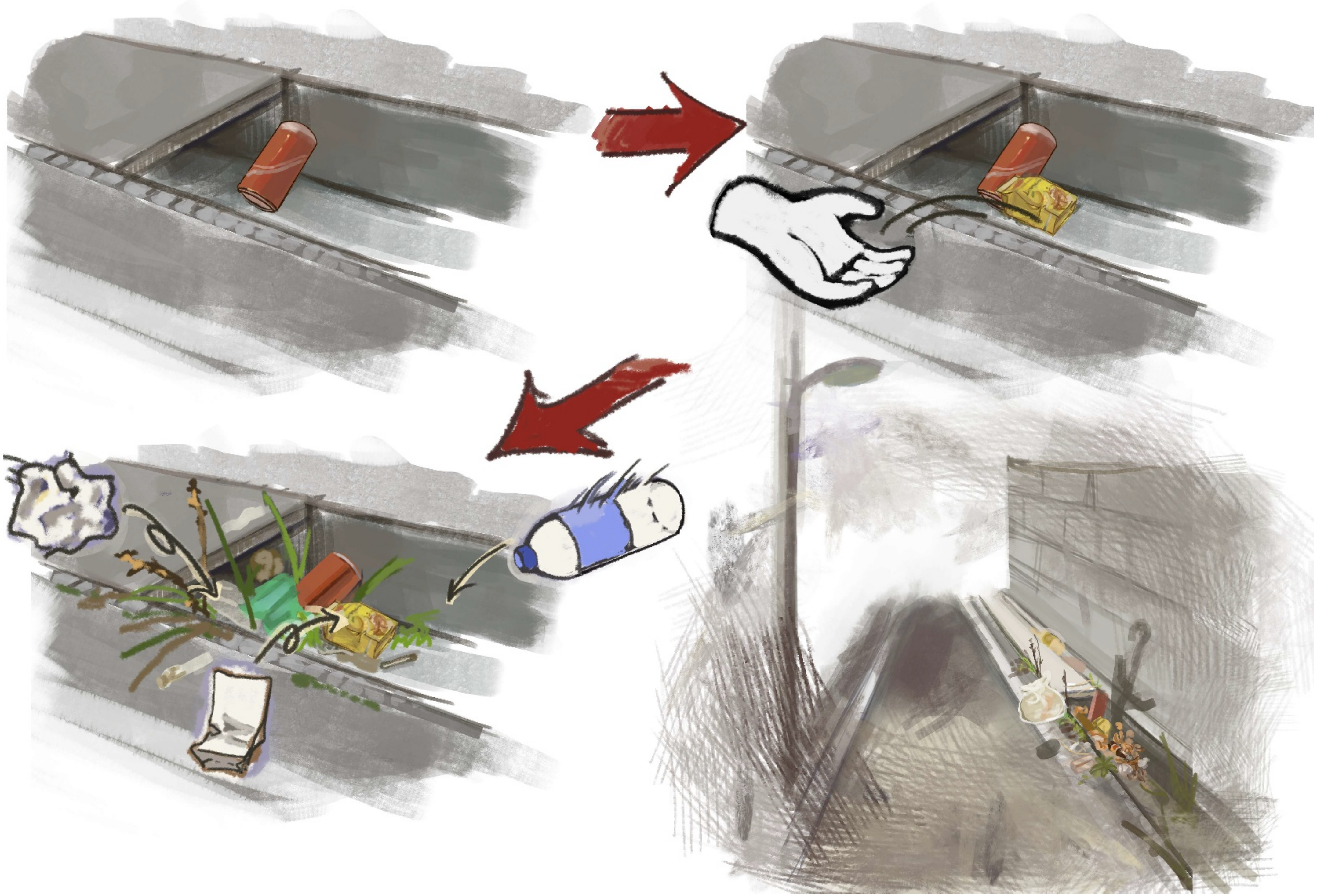
ひったくりなどの犯罪が起きやすい場所になってしまいました。

作成：認定NPO法人好きっちゃ北九州

一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団

2023年度「住まいとコミュニティづくり活動助成」

絵：山本 凛香



~たったひとつのゴミから~

最初は、たったひとつのゴミだったけれども、
災害が起きてしまったり、犯罪が起きやすい場所になってしまいました。

そうならないためにも、
『たったひとつのゴミ』を無くしていくことが重要です。

「あら、こんなところにゴミが落ちてる。拾っておこう」

たったひとつのゴミも見逃さない。
小さなところから対応します。
こんなちょっとした優しさの行動が、まちを守っていきます。

いつも、キレイで明るい道。
気持ち良く、みんなが通ります。
そういう場所では犯罪も起きにくいものです。

パトロールの際にも、そうした視点をもって地域をまわってみると良いですね。

おしまい、おしまい。

作成：認定NPO法人好きっちゃ北九州
一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団
2023年度「住まいとコミュニティづくり活動助成」
絵：山本 凛香

～たったひとつのゴミから～

『たったひとつのゴミから』というお話です。

たったひとつのゴミから、その後、どんな展開になっていくでしょうか。

「このゴミ、持っておくの、めんどくさいなぁ。
　このへんに、捨てちゃえ。」

いま、たったひとつのゴミが捨てられました。

ゴミは、側溝のなかに、落ちていきました。

このたったひとつのゴミから始まってしまう
2種類の、悪い物語です・・・

作成：認定NPO法人好きっちゃ北九州
一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団
2023年度「住まいとコミュニティづくり活動助成」
絵：山本 凛香